

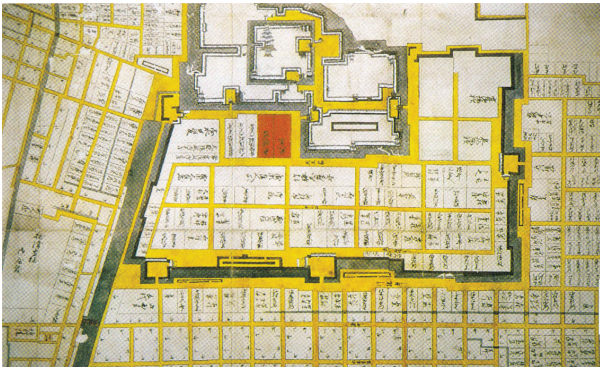
# 名古屋・堀川の再生とまちづくり

名古屋市緑政土木局河川部  
堀川総合整備室 主査 林 正博

## 1. 堀川の沿革

堀川は、名古屋市の中心部を南北に流れる延長16kmの水源を持たない人工河川で、都心を流れる唯一のウォータースタイルである。

名古屋城の築城（1610年）と同時に開削されて以来、生活物資の重要な動線であると同時に、花見の名所でもあり、イワシやカツオが遡上し、潮干狩りをするなど市民の憩いの場として明治初期まで賑わったという。



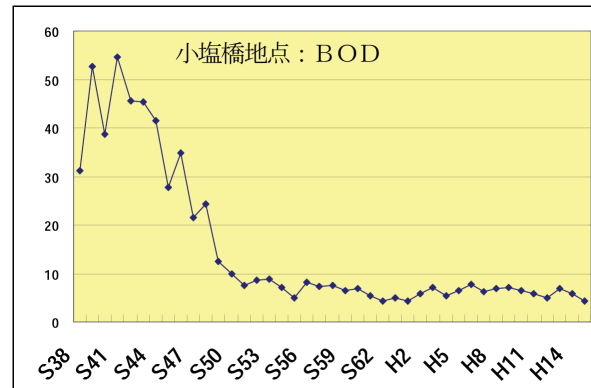
図一 名古屋図(蓬左文庫所蔵)／享保18年(1733)頃写

その後、名古屋の発展を支えてきた「母なる川」である堀川も、都市化の進展に伴い都市河川の例に違わず水質悪化が進み、ごみが川面に漂い、悪臭を近隣に放つなど汚濁が進み、昭和40年代前半にはBODが50mg/lを超えるレベルまでになった。

しかし、昭和40年代以降、下水道の整備、排水規制、さらにはヘドロの除去などの努力により、昭和50年代には、ほぼ1/5の10mg/l以下のレベルまで改善された。その後、昭和63年には、市制100周年を迎える記念事業の1つとして“堀川の大改修”が位置づけられ、同年国から「マイタウン・マイリバー整備事業」の河川第1号として指定を受け、白鳥・納屋橋・黒川の3地区を中心に護岸や水辺空間の整備を行うとともに、ヘドロ除去、合流式下水道の改善を進めてきた。

現在では、BODで5mg/l以下のレベルまで水質の改善が進み、護岸の整備もかなりの部分で進ん

できたが、この背景には、市民レベルでの堀川再生への取組みの盛り上がりがあったと言えるのではないか。



図一 堀川の水質

## 2. 納屋橋界隈の賑わい復活

名古屋を東西に貫くメインストリートである広小路通と堀川とが交差する場所に架かっているのが納屋橋である。その界隈は、かつては舟運や広小路を行き交う車馬の往来で賑わう場所であった。しかし、近年は名古屋駅と伏見・栄の狭間で、次第に訪れる人も少なくなりつつあった。

そこで、本市では、堀川の整備をきっかけに、この納屋橋地区に賑わいを創出し、魅力ある街として復活させることができるのではないかと考え、「活気の中に都心にふさわしいおいしい」をコンセプトに、市民の方と協力しながら、これまでにいくつかの施策・事業を進めてきた。

### ①歴史的建造物の保存

納屋橋は、堀川の開削時に架けられた7つの橋、すなわち「堀川七橋」と呼ばれる橋のひとつで、江戸時代から由緒のある橋である。

大正2年に改築された際には、当時最先端の鉄鋼アーチ構造を採用する一方、その高欄には、堀川開削者の“福島正則”の家紋（中貫十文字）をあしらうなど、歴史を踏まえたつくりになっており、昭和56年の架け替えの際にも、高欄はそのまま利用するなど当時のデザインを今に継承したものとなってい

る。

また、この橋のもとに立つ旧加藤商会ビルは、昭和6年頃、貿易商の本社ビルとして建築されたもので、戦前にはシャム領事館としても利用されていた。このビルは、護岸整備に際し、取り壊しが予定されていたが、まちの歴史を今に伝える貴重な歴史的建造物として保存を望む市民の声を受けて、検討を加えた結果、市内でも数少ない昭和初期の建築様式を色濃く残す建築物であるとの学会の指摘や、耐震補強を施せば構造上も問題がないことが判明したため、保存・修景を行うことを決定したもので、平成12年には、当時の所有者より本市に建物が寄贈された。

その後、国の有形文化財の登録（平成13年4月）を受け、平成15年から修復を進め、平成16年10月に完成した。このビルは地上3階、地下1階で、1階から3階まではかつてシャム領事館として利用されていたことにちなみ、タイ料理のレストランがテナントとして入り、地下1階は本市が「堀川ギャラリー」として、堀川に関連する資料や堀川再生に向けた市民の取組みを紹介するためのスペースとして、本年1月にオープンした。



写真-1 旧加藤商会ビル

## ②遊歩道の整備とにぎわいづくり

納屋橋を中心に上下流約400mの区間を納屋橋地区として、平成6年から護岸改修などに取り組んで

きた。

これまでに、両岸合わせて、約300mの遊歩道が完成しており、遊歩道の舗装にはかつての路面電車の“敷石”を利用し、ガス燈風の照明を設置するなど、景観にも配慮した整備を行っている。なお、納屋橋南側左岸では、市有地を活用して、「愛・地球博」開催期間中（9月下旬まで）ではあるが、「納屋橋環境劇場」として、5店舗の屋台村が運営されおり、一層のにぎわいづくりに取り組んでいる。

こうした遊歩道の整備が進む中で、かつては川に背を向けていた川沿いの建物にも変化が現れ、現在では3棟のビルが川に顔を向けるように改築されるとともに、遊歩道を利用したオープンカフェを実施したいという要望が寄せられるようになってきた。



写真-2 納屋橋地区



写真-3 納屋橋環境劇場

## ③堀川における社会実験の動き

昨年3月には、河川区域にオープンカフェ等を設置することができる特例的な措置が国において制度

化された。

名古屋市においても、オープンカフェを望む地元からの要望を受けこの制度の活用することとし、本年1月、堀川は広島、大阪に続く全国3番目の河川として、国から特例措置の指定を受けた。

その後、学識、地元代表、行政機関から構成される協議会の審議や本市外郭団体への占用許可など所定の手続を経て、本年3月よりオープンカフェの開店が可能となった。

現在、5店舗と契約しているが、天候の関係もあり、まだまだ定着しているとは言いがたい状況にあるが、今後とも遊歩道の整備を進め、契約の拡大を図っていきたい。

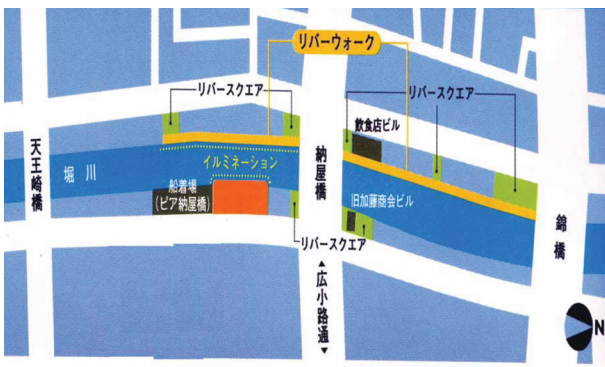


図-3 納屋橋地区



写真-4 オープンカフェ実施状況

#### ④船着場の整備

護岸整備や水質の浄化がある程度進む中、市民の目が堀川の水面に向けられ始め、舟運の復活を望む声も高まりを見せるようになった。こうした声を受け、平成13年には納屋橋下流左岸に“ピア納屋橋”として船着場が整備された。このほか、堀川では、

#### <社会実験の概要>

##### 1 実施箇所

堀川納屋橋地区[天王崎橋～錦橋間(約400m)]の区間とする。

##### 2 実施内容

- ①リバーウォーク(遊歩道)内にオープンカフェ区域を設ける。
- ②リバースクエア(親水広場)をイベント区域とする。
- ③建物に直接取り付ける日よけの設置を認める。

##### 3 実施期間

社会実験として試行的に行うため、3年間とする。

##### 4 運営体制

###### (1) 地元協議会の設置

河川敷地の適正利用及び占用許可の公平性を確保するため、学識経験者、関係行政機関、地元代表から構成される協議会を設ける。

\* 堀川納屋橋地区河川敷地利用調整協議会

###### (2) 管理団体の設置

- ・名古屋市と公益法人である名古屋市建設事業サービス財団が協働して、河川敷地の管理運営を行う。
- ・名古屋市とサービス財団は、協働して占用区域の維持、管理及び営業活動を行う事業者等の監督、指導等を行う。
- ・事業者から徴収した収入は、河川敷地の維持管理及び良好な水辺空間の保全、創出を図るための費用に用いる。

宮の渡し・白鳥の船着場が整備されているが、名古屋港から名古屋城まで舟運を復活させるという考えのもと、本年3月に堀川開削当時の舟溜りであった朝日橋に船着場を整備した。

現在は、名古屋港から名古屋城までの運航が可能になり、不定期ではあるが、屋形船や和船が就航している。流れる水はまだまだ今でも濁り、遊歩道も全区間完成していないが、10年前よりも、見違える納屋橋となってきた。今後も、この地区の早期完成

に向け、にぎわいやうるおいが取り戻せるよう整備を図っていききたい。



写真－5 納屋橋船着場

### 3. 市民の力による堀川再生

水質浄化についても、推進の大きな力になってきたのは、市民の堀川浄化・再生に対する「熱い想い」と行動力にほかならない。

最近の堀川浄化への市民の取組みのきっかけとなったものは、平成10年9月から平成13年8月にかけて、地下鉄（上飯田連絡線）工事の湧き水を堀川へ放流し、一時的にせよ、堀川上流部に清流がよみがえったのを、市民の方が、目の当たりにされたことではなかったかと思う。

工事湧水の放流により、水源のなかった堀川に、オイカワが群れ、水草が復活し、子供たちが喜んで水遊びする姿を目にするようになった。堀川への関心が高まり、より一層の浄化への願いが、平成11年には“堀川に清流を”という署名活動での「20万人署名」へとつながり、その結果、平成13年7月から現在にいたる、庄内川からの、0.3トン/秒の暫定導水として実を結んだ。

また、15年度には、市民団体が中心となった「名古屋堀川1000人調査隊」プロジェクトが実施され、結果的には、2000人余りの方が参加し、庄内川からの導水の増量にあわせて、市民の目線で堀川の状況変化を観察するという取組みとなった。

平成16年2月から5月かけ行われた思い思いの調査や6月に行った成果発表会、インターネットでの情報交換などを経て、堀川を通じた広範なネットワークを生み出すという大きな成果を上げられたこと

は、市民の堀川への関心の高まりを象徴する出来事であったと言える。



写真－6 堀川1000人調査隊通水式



写真－7 堀川1000人調査隊結成式

### 4. 結び

名古屋城築城400年の2010年は、堀川にとっても開削400年にあたり、堀川総合整備にとっても大きな節目となる。現在整備中の地区を優先して整備を進めているが、特に納屋橋地区は、2010年までに完成させるなど「堀川」の再生を目指して整備を図っていききたい。

また、市民の悲願である堀川浄化についても、「堀川水環境改善緊急行動計画」を平成16年8月に策定したところであるが、市民と一体となって水環境改善に取り組み、2010年までには、中流部において現在の環境基準であるDランクから、ワンランクアップのCランク相当に水質改善できるよう施策を進めているところである。



\* 「ホリゴン」は、名古屋市のホームページ「ほりかわデジタルかわら版」のイメージキャラクターです。